

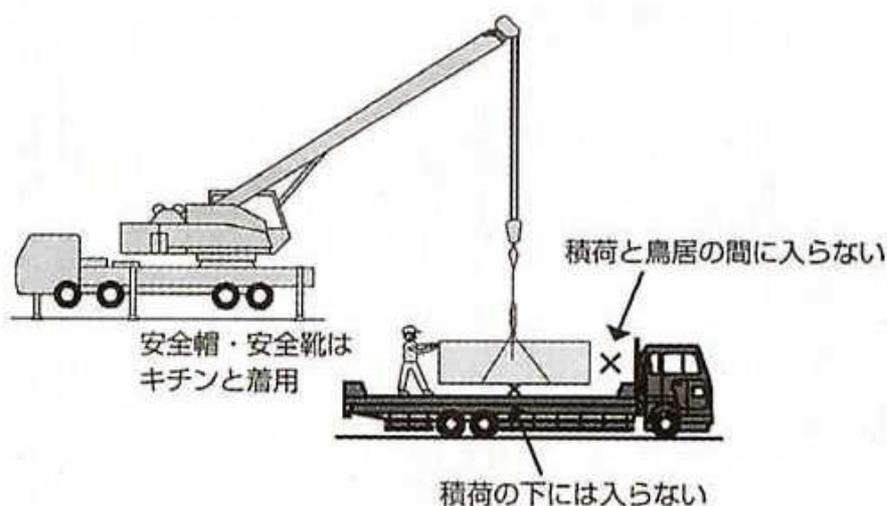
▷積付け・固縛にあたっての注意

・運行指示・打ち合わせ

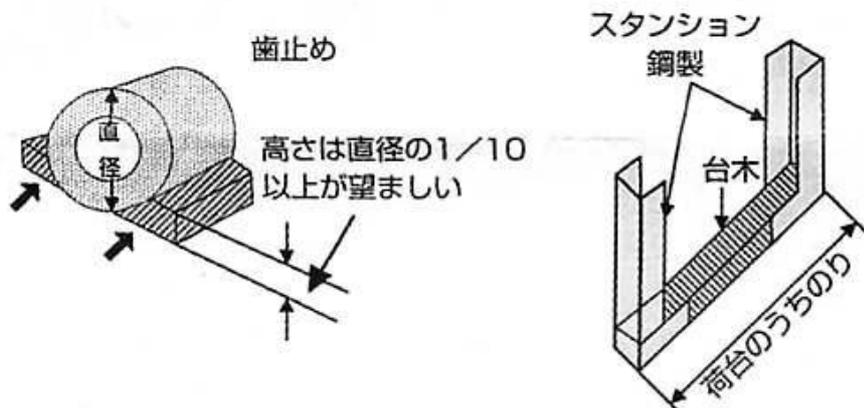
点呼の際、運行経路、積荷（品名、数量、形状など）を確認し、積載方法と使用機器の選定と点検を行う。

・積付け・固縛

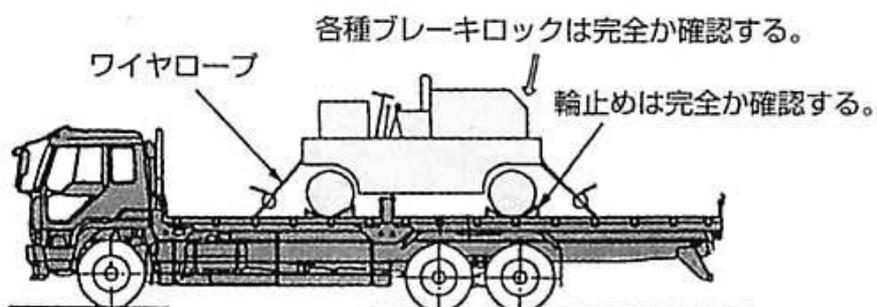
- ①積付け作業は指揮者と十分に打ち合わせをし、その指示に従う。
- ②特に、帰り荷を積む場合には、積荷の確認が大切である。
- ③積付け・固縛には必要な機器を十分に活用し、絶対に手抜きをしない。
- ④荷台上での積付け・固縛作業中は、常に荷崩れや不慮の事態に備えるとともに、可能な限りクレーン運転士の視野内（積荷の影に入らない）で、安全な姿勢で行う。



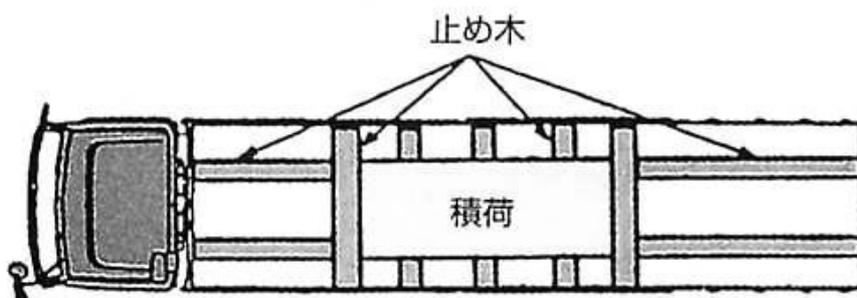
- ⑤高所（地上高2m以上）で作業する時は、梯子・踏台等を用いて安全な位置・姿勢で行う。
- ⑥転がりやすい積荷には、歯（輪）止め、スタクションを用いる。



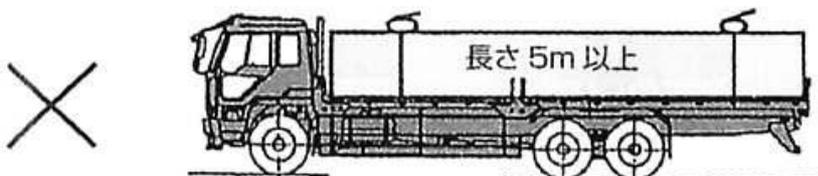
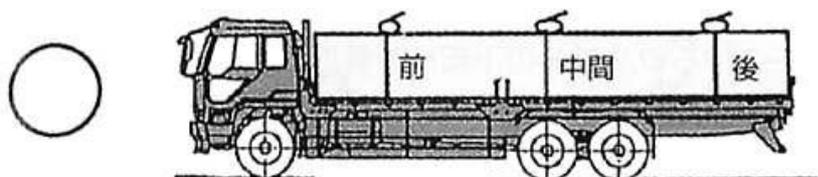
- ⑦建設機械等を積載した時は、ワイヤロープ等による固縛のほか、各種ブレーキロックおよび輪止めが完全かを確認する。



- ⑧前後・左右に空間が生じる場合は、止め木等を用い、荷ずれを防止する。



- ⑨積荷の長さが5m以上の場合は、少なくとも前後と中間の3点（6か所）を固縛する。



- ⑩積荷によっては雨水に濡れるのを防ぐためにシートを掛け、雨水が吹き込まないように注意する。
- ⑪走行中にシートが膨らんだり、はがれないように十分固縛する。なお、シート掛けのみでは固縛効果が小さいので、必ずシート掛けの前またはシート掛け後に荷崩れ防止のためロープ掛け等の固縛をすること。